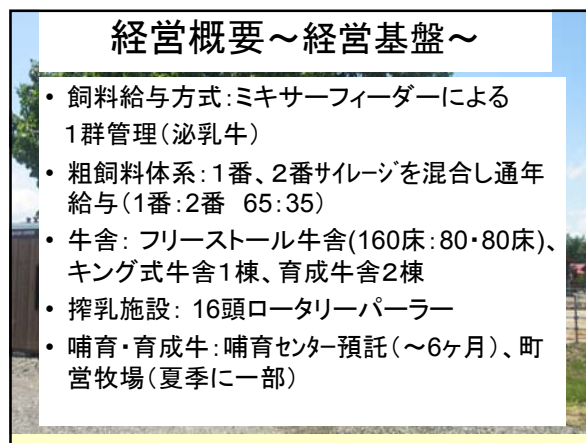
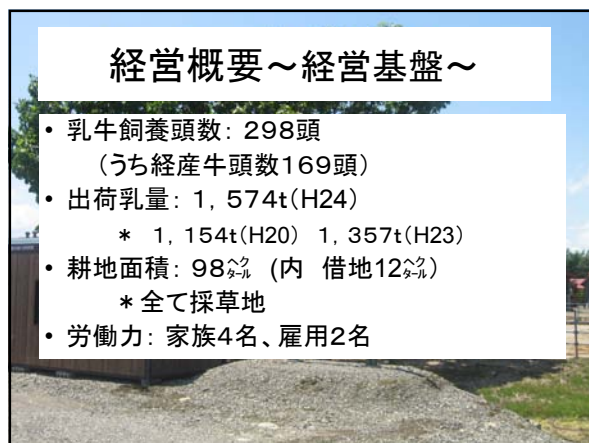
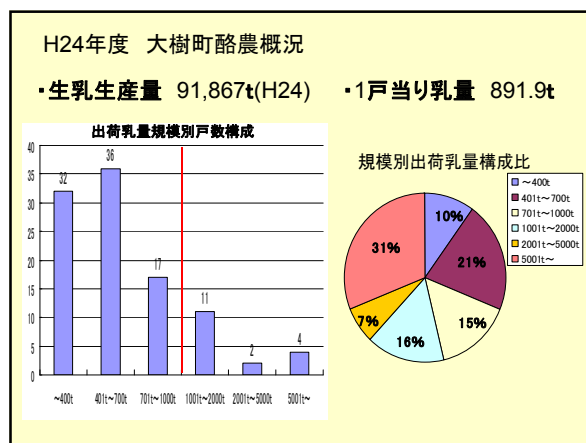




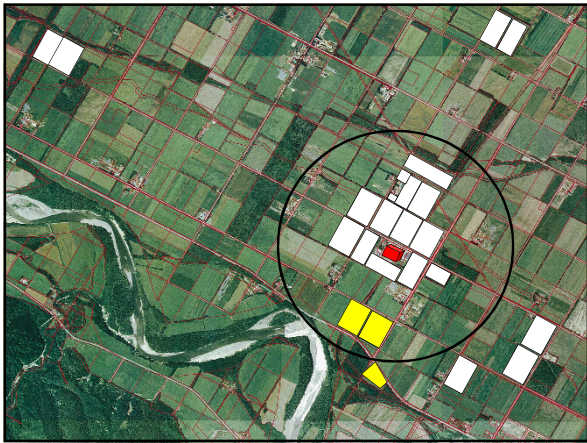
大樹町酪農概況(H25.11)

酪農家戸数	102戸
(うち育成農家4戸)	
総飼養頭数	17,127頭
1戸当り飼養頭数	167.9頭



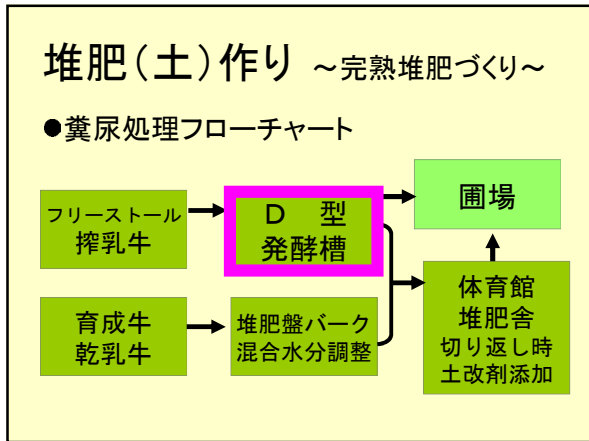
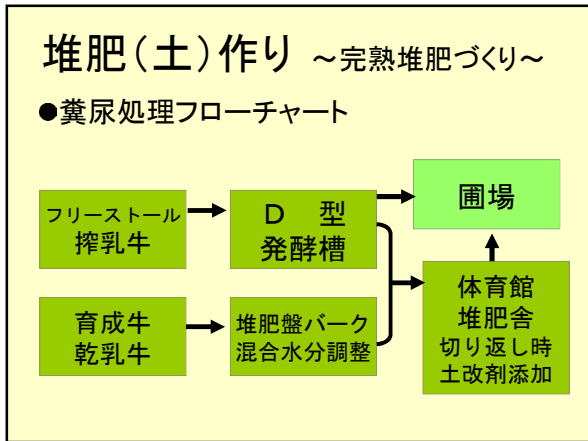
施設状況				
区分	規模	建設年次	数量	利用体系
牛舎	73,80,80頭	S48、H10、H22	3	キング式、フリーストール×2
育成牛舎	80頭	S57、H5	2	フリーストール、フリーバーン×2
サイロ	3,082㎡	S56、63、H2、12、18	8	バンカーサイロ、スタックサイロ
乾草舎・飼料庫	218㎡、95㎡	S54、H8	2	H8年:単味飼料庫
搾乳施設	18頭	H10	2	ロータリーパーラー
尿溜・堆肥場	983㎡	S48、58	2	堆肥盤、旧体育館堆肥舎
その他施設	270㎡	H10	1	糞発酵攪拌装置
	150㎡	H19	1	パーラー糞排水処理槽
従業員住宅		H23	1	

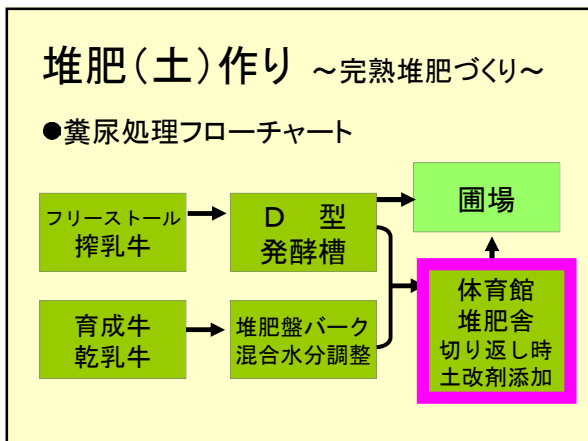
牛群検定成績(平成24年度)		
牛群構成	平均経産牛頭数	153.2
	平均搾乳牛頭数	144.1
経産牛1頭あたり成績	年間乳量 [kg]	10,805
	1日当たり乳量 [kg]	33.5
	乳脂率 [%]	3.91
	無脂固形率 [%]	8.65
	搾乳日数率 [%]	89
	体細胞数 [千個]	65
繁殖	分娩間隔 [日]	416
	初産分娩月齢 [月]	25



太田牧場の取組

- ・完熟堆肥作り
- ・草地更新(播種床作り)
- ・草地の維持管理







草作り～維持管理草地～

- ・化成肥料(BBS650)散布
→ 化学肥料を25kg/10aに低減(H20年)
(以前は30kg/10a)
- ・全圃場場へ完熟堆肥を
4 t/10a 投入(秋)



草作り ～こだわりの雑草防除～

雑草(ギシギシ)は手で抜き取る

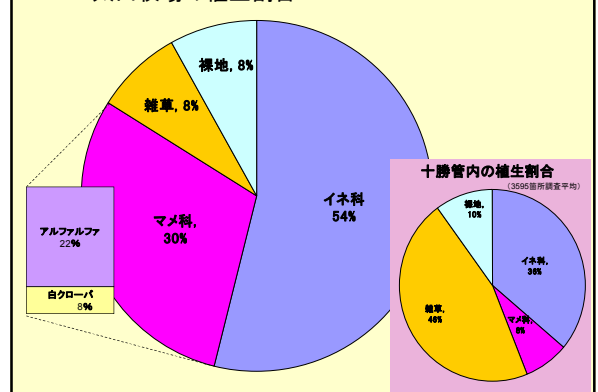


草作り～圃場ダメージ低減の工夫～

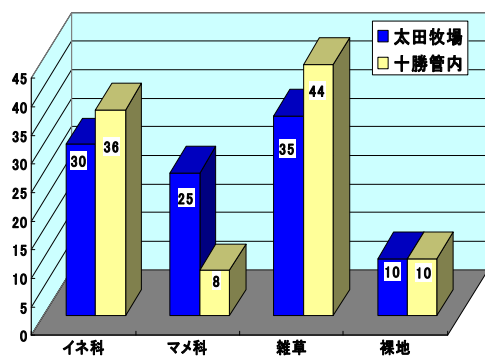
- ・作業体系の工夫・作業機はタイヤを大きくする
= 接地圧を低くして土壌硬化を防ぐ
- ・雪融け後、裸地化を防ぐため
パスチャーハローを使用して堆肥の粉碎

⇒ 雑草、裸地のほとんど無い草地を維持
⇒ 計画的な更新の実現

太田牧場の植生割合



参考データ(12年経過した草地)



パーラー雑排水処理施設から出る汚泥も草地に還元



H19年施工

施工費用 1200万円



地域資源の活用



雪印メグミルク大樹工場から出された乾燥汚泥も堆肥作りに活用

収穫作業は

個人で実施(オペレーターだけ派遣)

⇒ 適期刈り取りが可能

* 予乾を重要視している

* 乳酸菌等の添加剤は使用していない。

課題と対策

・飼養頭数増加により既存の施設では糞尿処理が限界に近づいている。

(堆肥の攪拌機の稼働が1日1回から2回になった)

⇒ 糞尿攪拌機の更新あるいは新たな方法を模索

・草地面積の増加により更新間隔が長くなり古い草地での雑草が目立ち始めた。

(約8年の更新が出来なくなっている)

⇒ 既存の草地更新と併せて簡易更新の検討

終わりに

・激変する時代に対応できる
足腰の強い酪農経営を目指す

・土(堆肥)作り、草作り、牛作りの
基本(健土健民)を守る